

平成28年度

# 産業建設水道常任委員会 行政視察報告

(平成28年10月26日～28日)

## ■ 視察先／静岡県沼津市、富士市、藤枝市

沼津市：沼津港周辺の観光振興について

みなとオアシス沼津について

富士市：富士市産業支援センター（f-Biz）について

藤枝市：農商工連携・6次産業化推進ネットワーク事業について

薬草栽培の普及促進による耕作放棄地対策について

## ■ 視察者

委員長：海野誓生、副委員長：松葉進一、

若杉盛二、谷口美春、甲斐敏彦、

木田吉信、西村豪武



## はじめに

私たち産業建設水道常任委員会は、

- (1) 農業の担い手、新規就農、遊休地の現状について
- (2) 日向入郷地域の林業の現状について
- (3) ブランド化、6次産業化、薬草の里づくりの現状について
- (4) 中小企業振興、企業誘致、細島港の現状について

を今年度の課題として取り組むこととしており、そのような観点から、今回の行政視察先を決定しました。

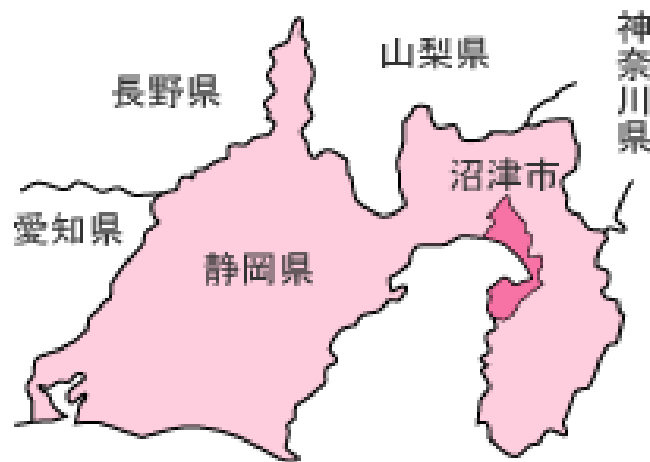
# 静岡県沼津市 NUMAZU

人口：199,901人、面積：186.96km<sup>2</sup>

沼津市は静岡県の東部、伊豆半島の付け根に位置し、富士箱根伊豆国定公園の西玄関となっています。市の中央を流れる狩野川を中心に街並みが連なり、周辺部は海、山に囲まれた都市です。

気候は温暖で、多彩な自然環境に恵まれていることから、ミカン・茶・野菜の栽培、駿河湾の豊富な水産資源を背景とした水産業や干し物などの水産加工が盛んな街です。

若山牧水の終焉の地でもあり、市内には文学碑が点在しており、沼津港に近い千本松原の一角には沼津市若山牧水記念館もあります。



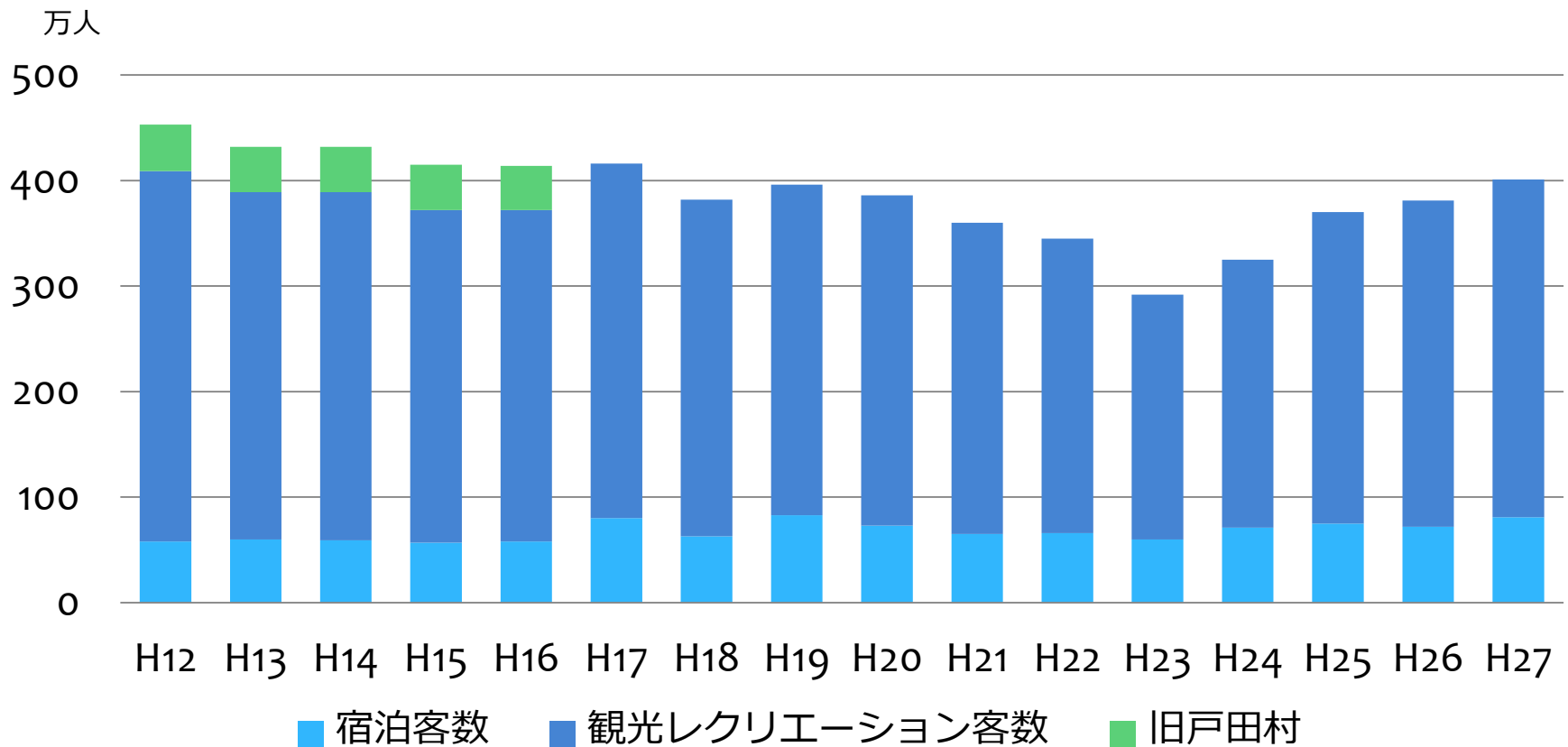
大型展望水門「びゅうお」 沼津市ホームページから引用

## 静岡県沼津市

# 「沼津港周辺の観光振興について」 「みなとオアシス沼津について」

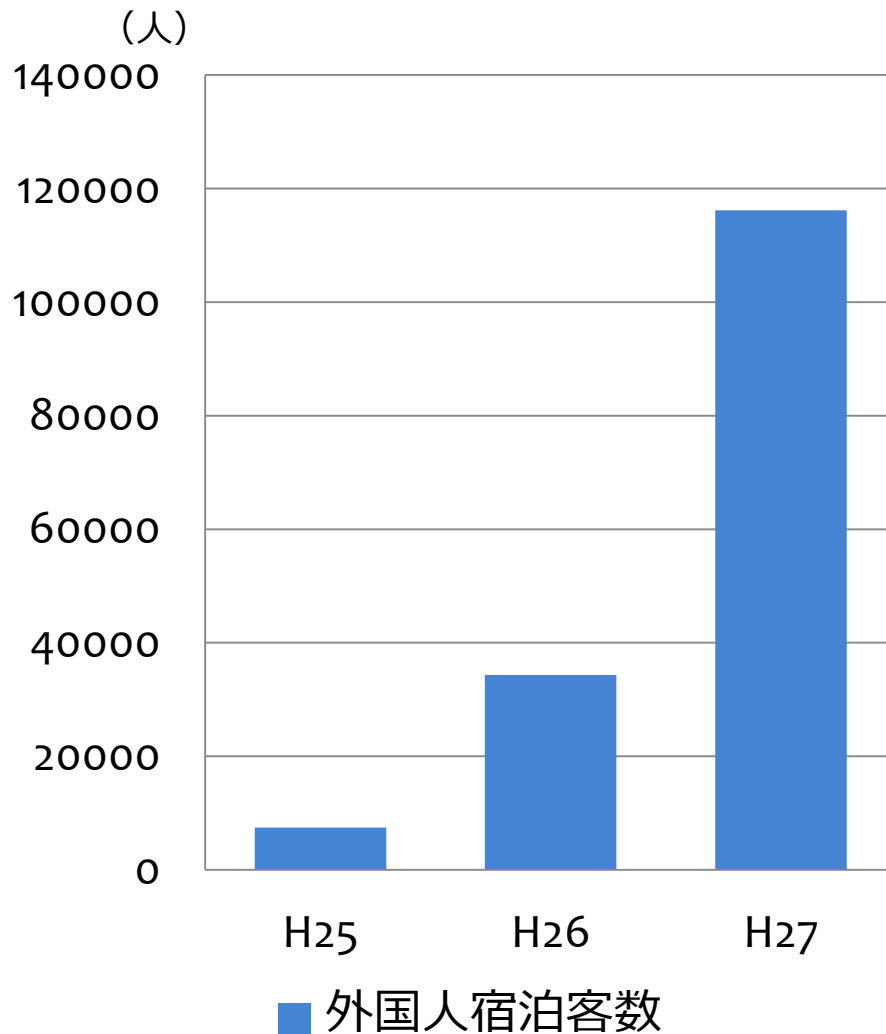
1. 沼津市の観光交流の動向
2. 沼津市への外国人来訪動向
3. 沼津港を中心とする観光施策
4. 沼津港周辺の施設整備状況
5. みなとオアシスとは
6. 全国のみなとオアシス
7. 委員の所感

# 1. 沼津市の観光交流の動向



東日本大震災の影響により、平成23年度には約292万人にまで減少していた観光交流客数は、平成27年度には約401万5千人（前年比約5%増）となるなど、回復傾向にある。

## 2. 沼津市への外国人来訪動向



沼津市への外国人宿泊客数は、平成27年で116,193人であり、平成25年の7,457人から15.5倍と急増している。

国籍別では、7割以上が中国。次いでタイ、台湾、アメリカ、韓国となっている。

沼津市では、タイや台湾へ観光客誘客のための積極的なプロモーションを行っており、それが宿泊客数の増加につながったと見られる。

### 3. 沼津港を中心とする観光施策

#### ➤ 観光施設の運営

- 沼津港大型展望水門「びゅうお」
- 我入道の渡し船

#### ➤ その他の施策

- 各種媒体を用いた情報発信
- 観光案内業務
- 無料シャトルバス
- レンタサイクル「ぬま輪」
- 沼津港周辺沼津市施設共通入場券の発行
- 潮の根プロムナードの回遊



我入道の渡し船（季節運航）



レンタサイクル「ぬま輪」

写真はいずれも沼津市ホームページから引用



## 4. 沼津港周辺の施設整備状況

### ➤ 沼津港大型展望水門「びゅうお」

整備主体	静岡県（扉体） 沼津市（展望回廊）
運営管理	沼津観光協会（指定管理者）
総事業費	約43億円
財源内訳	（扉体）静岡県 39億円 （展望回廊）静岡県 1億円 （観光施設整備事業費補助金） 沼津市 3億円
利用状況	平成27年3月末までの 累計来訪者113万人



大型展望水門  
「びゅうお」

### ➤ 沼津魚市場INO（水産複合施設）

整備主体	沼津魚類協同組合
運営管理	沼津魚類協同組合
総事業費	約12億4千万円
財源内訳	整備主体 8億1千万円 静岡県 2億7千万円 （水産業総合推進事業費補助金） 5千万円 （観光施設整備事業費補助金） 沼津市 1億1千万円 （水産業振興事業費補助金）
利用状況	年間約16万人が利用



沼津魚市場INO



## ➤ 沼津みなと新鮮館（沼津港マーケットモール）

整備主体	沼津魚仲買商協同組合
運営管理	沼津魚仲買商協同組合
総事業費	約3億円
財源内訳	整備主体 2億5,100万円 静岡県 2,450万円 （観光施設整備事業費補助金） 沼津市 2,450万円 （水産業振興事業補助金）
施設概要	鉄骨造平屋建 店舗（物販・飲食）13店舗 トイレ 観光案内スペース イベントスペース 駐車場（30台） ウッドデッキ
開館時間	午前6時から午後10時まで
利用状況	平成27年の利用者 約62万人



沼津みなと新鮮館 ※写真は沼津市ホームページから引用

## 5. みなとオアシスとは

### ▶ みなとオアシスとは

海浜、旅客船ターミナル、広場など、みなと周辺の施設やスペースを利用して、地域住民、商店街、漁協などの連携した取組みにより、みなとを核としたまちづくりの促進、みなとの利用者の利便の向上及び災害時の人々の生活支援拠点の形成を目的とするものです。

みなとオアシス沼津は、平成19年11月7日、国土交通省中部地方整備局により認定。

### ▶ 主な認定要件

- ① 安全性及び利便性に配慮し、地域振興及び災害時の生活支援に資するものであること
- ② 「みなと」に関する情報、地域情報、観光情報、災害情報を提供できること
- ③ 休憩等ができる場所が準備されていること
- ④ 地域のイベントを実施できること
- ⑤ 地域振興に係る取組みが継続的に可能なこと



シンボルマーク  
(国土交通省HPから引用)

## 6. 全国のみなとオアシス

### ▶ 全国で92港（H28.9.17現在）

北海道開発局：9港

東北地方整備局：14港

北陸地方整備局：13港

関東地方整備局：4港

中部地方整備局：7港

近畿地方整備局：8港

中国地方整備局：16港

四国地方整備局：10港

九州地方整備局：8港

沖縄総合事務局：3港



宮崎県内には  
認定港はない



## 7. 委員の所感

- 本市は、昨年2月に細島港の港湾計画の改定がなされ、商業港地区の交流・環境【にぎわいのある親水空間の創出への対応】が今後、地域住民の声を聞きながら進められると思われるが、その参考になるのではないかと思われる。
- 「みなとオアシス」制度は、平成28年7月現在で全国90箇所、仮登録4箇所。この認定を受けるメリットは、港への訪問者増以外にはないとのこと。宮崎県内にはまだ登録がない状況であり、港の振興に関する各種支援の内容によっては、細島港での取り組みの可能性は検討すべき課題の一つであろう。
- 沼津市、港における観光戦略、施策、地域の人たちの熱意等については参考にすることが多かった。また、みなとオアシスの設定が観光客の増加に繋がり、観光収入も多くなっていることを考慮すると、同じ港を持つ日向市も観光客増加策の一環として、みなとオアシス等の認可を受ける体制を確立することが必要であり、地域住民の熱意と各種施設の設置、行政とのタイアップが不可欠である。日向市、細島港の活性化のために努力していかなければならない。

- 沼津港が平成12年に国の重要港湾に指定されたのは、日向市と同じである。ある程度の事業が完成し、次なる振興政策の段階に入っているのも、日向市と同じように思える。いかに港を中心に振興するか、まちづくりに結び付けるかなど、多くの課題も集約されてきたが、将来の人口減少、経済の縮小が考えられる中、次なる施策が大変厳しい状況にあるのは、沼津市以外でも同じであるということは理解できた。ただし、沼津市は関西・関東の中心に位置しており、これからの振興についてはまだまだ発展する可能性がある。参考にしていくべきであると感じた。
- 沼津港周辺の整備状況は、いずれも平成17年から、いわゆる国の景気対策に呼応したハコモノが中心。都市圏であるから今後の維持管理運営は問題ないものと思われるが、地方都市では厳しいと感じた。全国のこのような方式が、現在の財政を圧迫しているのではないかと心配した。
- 集客が多いのは、世界遺産・富士山が近くにあるからである。官民一体の取組みがことを成す。

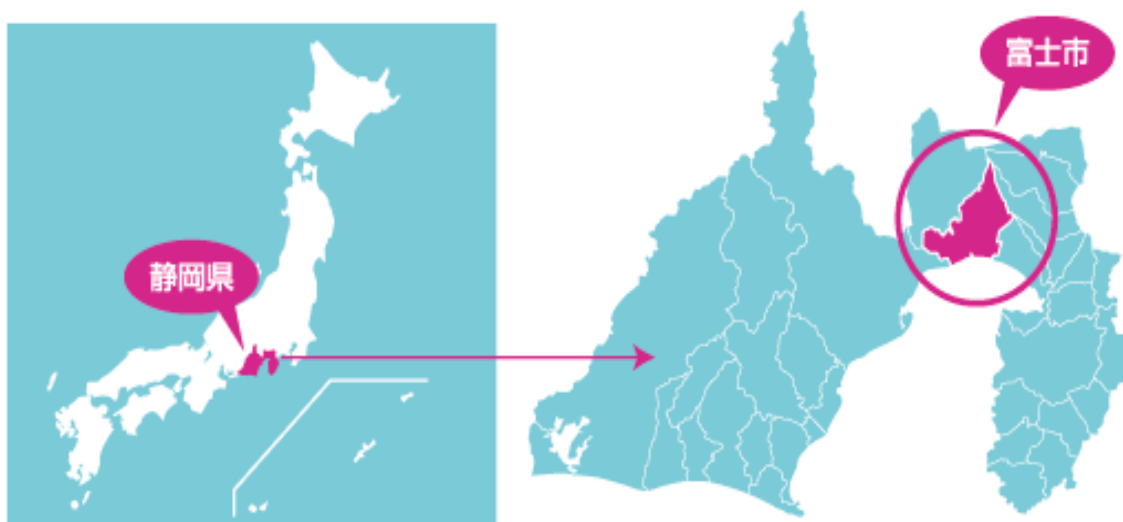


# 静岡県富士市 FUJI

人口：256,731人、面積：244.95km<sup>2</sup>

富士市は静岡県の東部に位置し、東海道新幹線、東名高速道路、新東名高速道路、国道1号などが市内を横断する交通の要衝であり、県内はもとより近隣他県へのアクセスも良好な位置にあります。

気候は温暖で、豊富な地下水に恵まれ、古くから製紙産業が盛んな「紙のまち」として発展してきましたが、その後、輸送関連産業や化学工業等工場の立地が進み、現在では紙パルプのほか、化学、電気機械産業など、多様な産業が集積する工業都市となっています。



「富士市の工業夜景」 富士市ホームページから引用

## 静岡県富士市

# 「富士市産業支援センターについて」

1. 富士市産業支援センター（f - B i z）とは
2. 支援対象、支援手法
3. 支援のポイント
4. 産業支援施設のスタッフ
5. f - B i z の実績
6. 全国に広がる f - B i z モデル
7. 委員の所感



# 1. 富士市産業支援センター（f-Biz）とは

## ▶ 強み創造型のビジネスサポート

“日本一高い、チャレンジスピリット。”

f-Bizは、中小企業等の経営上の問題解決と創業支援を担うことを目的に2008年8月に公設民営で開設。「新しい市場を開拓したい」「今の事業をさらに大きく成長させたい」「経営の課題を解決したい」という企業の声に応える産業支援拠点。



## ▶ 創業のためのワンストップセンター

“日本一大きな、夢たまご。”

f-Bizの起業支援施設、f-Biz egg。それぞれの人が持ついろいろな可能性の卵をしっかりと温めて、いろいろな視点からのアドバイスにより、新しいビジネスのヒナドリとして世に送り出し、誕生したばかりのビジネスが大きく成長するまでサポート。



## 2. f - B i z の支援対象・支援手法

### ▶ 支援対象

経営上の課題を抱えていたり、新事業や創業を計画している企業・団体・個人で、工業だけでなく、商業、サービス業、農林水産業なども含めた産業全般。

### ▶ 支援の手法

各種支援制度やプログラム、資金援助等の紹介・提供を主体とするのではなく、相談業務を中心とした「人」による支援で、企業に密着した個別支援を重視。企業の強みを伸ばすソリューションの提案、幅広い専門家を揃えたワンストップ・コンサルティングなど継続的なフォローに取り組んでいる。

### ▶ これまでの支援との違い

これまでは目標設定がなく、責任の所在が不明確で、ニーズを汲み取った運営がなされていなかった。また、経営課題の解決策を提示するのではなく、企業の問題点を指摘することだけに終始していた。

「f - B i z は病院のようなもの。我々は中小企業のお医者さん。患者さん（経営者）は“病”を治したくて病院に来る。相談を受けた瞬間、その人の人生を預かっているんだと思って取り組んでいる」（小出宗昭センター長 談）

### 3. f – B i z の支援のポイント

#### ▶ 相手を否定しない

相手を尊重し、否定しない。「すごいですね」「もったいないですね」などの言葉で勇気づける。

#### ▶ お金をかけない

リスクのある投資はせず、自社の強みを生かした増収策を立てる。

#### ▶ オンリーワンを見出す

相談者の事業のセールスポイントや強みを本人に気づかせる。相手がふと漏らした一言を聞きのがさない。

#### ▶ 具体策を提示する

相談者と同じ目線で課題や問題点を考え、アドバイスだけでなく問題解決の具体策を提案。

#### ▶ 成果が出るようサポートする

単発のアドバイスで終わるのではなく、成果を出すための戦略と戦術を共に練り、一緒に走りながら支援。結果が出るまで関わり続ける。



大切なのは、**スタッフの人材選びと育成**

## 4. 産業支援施設のスタッフ

### ▶ 必要な資質

資格や経験がモノを言う世界ではない。高いビジネスセンスとコミュニケーション力、そして情熱が備わっていること。

必要なのは、財務諸表の分析力よりも、経営者の話から企業の強みを見出し、具体的な商機を提示できるビジネスセンス。



チーム一丸となった“ワンストップ・コンサルティング”

### ▶ f - B i z のスタッフ

大手百貨店やマーケティング業界などで活躍する人材を小出センター長が自らヘッドハンティング。現在、f - B i z では、経営や I T、デザインの専門家8人が f - B i z の戦略を練っている。

コンサル時は、“院長”である小出センター長が初診を担当。必要に応じて、マーケティング、デザイン、販路開拓、プロモーション、ブランディングといった“専門医”であるアドバイザーたちとチームで取り組んでいる。

## 5. f - B i z の実績

### ▶ 相談件数

来場相談件数は右肩上がりで増加。2014年度は3,886件、2015年度は4,000件以上で、公的産業支援施設ではトップレベルを誇る。そのうち7割が売上向上につながっている。

相談内容では、販路拡大の相談が6割を占める。その結果、販路開拓や新分野進出、新製品開発などの分野で生まれた2014年度の成果は、売上額で23億円以上に上る。創業相談件数も600件を超え、2014年度は35件の創業を実現。

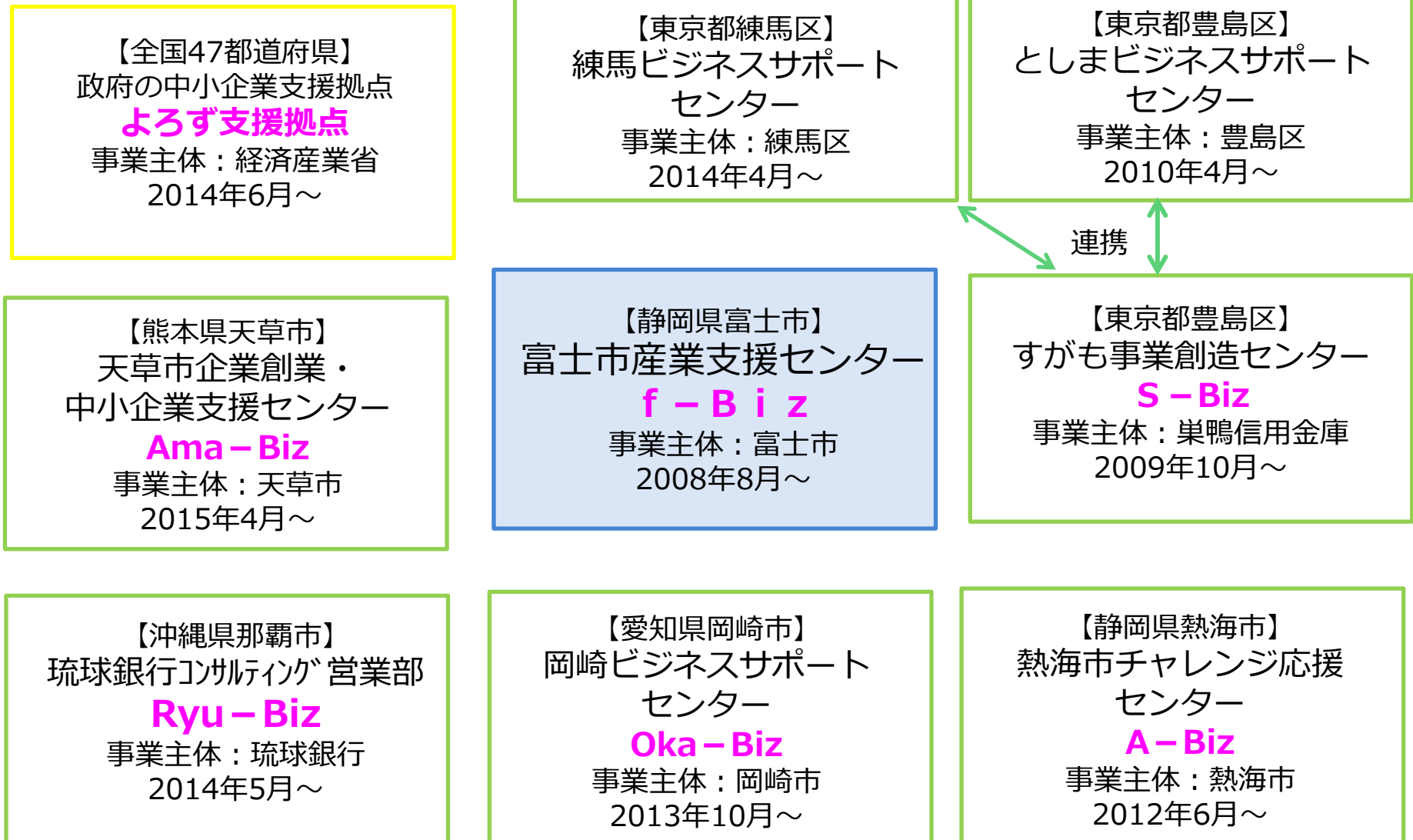
### ▶ 視察件数

全国の自治体や商工関係者らの視察も相次いでいる。昨年10月には過去最高となる1カ月で12件の視察があり、11月には200件に達する見込みとのことだった。



f-Bizの壁にはf-Biz eggで生まれた起業家MAPが

## 6. 全国に広がる f - B i z モデル



## 2016年中に全国8つの地方自治体が f - B i z モデルを展開！

【日向市】  
日向市産業支援センター  
**ひむか - Biz**

事業主体：日向市

【岐阜県関市】  
関市ビジネスサポート  
センター  
**Seki - Biz**

事業主体：関市  
2016年7月～

【静岡県裾野市】  
裾野市中小企業相談事業  
**Suso - Biz**

事業主体：裾野市  
2016年7月～

【長崎県大村市】  
(仮称) 大村市産業支援  
センター

事業主体：大村市

【静岡県富士市】  
富士市産業支援センター  
**f - B i z**

事業主体：富士市  
2008年8月～

【大阪府大東市】  
大東ビジネス創造センター  
**D - Biz**

事業主体：大東市

【長崎県新上五島町】  
新上五島町産業サポート  
センター

**Sima - Biz**

事業主体：新上五島町  
2016年7月～

【福岡県直方市】  
直鞍産業振興センター  
ビジネス相談所

事業主体：直方市

【広島県福山市】  
福山ビジネスサポート  
センター

**Fuku - Biz**

事業主体：福山市



## 7. 委員の所感

- 小出センター長の説得力ある講話に魅了された。日向市「ひむか-B i z」の新進気鋭の長友慎治センター長が行う、今後の地域産業や経済に関する活動に大きな期待を寄せ、見守りたいと思う。
- 小出さんとの面接の中で、本人が気づいていない良さ、素晴らしい能力を見つけ出す斬新な手法が切り口となり、業績が向上した例が数多く示された。自信に満ちた講話は、静岡銀行に入行後、数々の中小企業者との現場での体験、市道の実績にあるものと思われる。
- 日向市にオープンした「ひむか-B i z」だが、小出さんの指導を受けたセンター長の長友さんのアドバイス、指導に期待したい。指導を受ける方と一緒に歩調を合わせての相談、お互いの信頼からのスタートが成功に結び付くと思った。
- センター長の f - B i z 運営について、強烈な自信をまざまざと感じた。本市も長友センター長を迎え、ひむか-B i z を立ち上げたが、本市にも会社経営で悩んでいる人、新しく起業したいと思っている人が数多くいると思われる。本市の活性化と雇用の拡大を図るためには、ひむか-B i z が成功してもらわなければいけない。万全を期してサポートしていきたい。

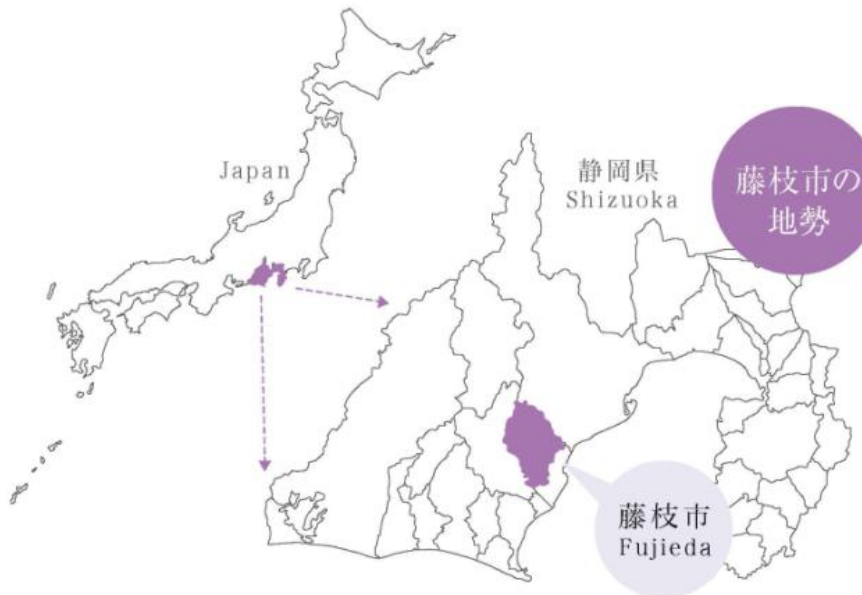
- 現在、起業・経営をされている方々にはかなりの苦悩と悩みがあるのが現実。そこに目をつけて側面的に応援することは必要だと思う。しかし、f-Bizでやっておられることは、地域性やその地域の産業構造、販売網、更には“人”の問題があり、一概には説明の額面どおりにはいかないのではないかと思う。今回、ひむか-Bizがスタートしたが、問題は地域人材の発掘が必要だと思う。小出宗昭氏も同じ考え方であった。ひむか-Bizでは、まず環境整備が必要ではないか。人材養成の必要性ややる気の人材と、それをサポートする機関（行政、商工会議所、地元企業など）の体制を早急に立ち上げなければ、成功は難しいと感じた。
  
- 本市は中小企業が多く、まさに中小企業が元気にならなければ、まちの活性化は作れない。「ひむか-Biz」の重要性について再認識した。

# 静岡県藤枝市 FUJIEDA

人口：146,565人、面積：194.06km<sup>2</sup>

藤枝市は静岡県のほぼ中央に位置し、山間部から流れる瀬戸川に沿って広がる志多平野に市街地が形成されています。古くから東海道五十三次の宿場町（岡部宿、藤枝宿）が設けられ、交通の要衝として栄えてきました。

気候は温暖で、年間を通して日照時間も比較的多いことから、茶、ミカンをはじめ、ガーベラ、バラなど花卉類の生産も盛んです。また、サッカーのまち、スイーツのまちとしても知られています。



「蓮華寺池公園の藤棚」 藤枝市ホームページから引用

## 静岡県藤枝市

### 「農商工連携・6次産業化推進

#### ネットワーク事業について」

1. ネットワーク設立の経緯から設立まで
2. 事業の目的と役割
3. ネットワークの支援
4. プロジェクト紹介

### 「薬草栽培の普及促進による

#### 耕作放棄地対策について」

5. 藤枝市の農業の現状
6. 藤枝市薬用農作物出荷組合
7. 問題点と今後の展開
8. 委員の所感

## 1. ネットワーク設立の経緯から設立まで

- 農業者の高齢化、担い手不足、耕作放棄地の増加
- リーマンショック以降、中小企業を中心とした厳しい状況



- 製品の付加価値化への取り組みが活発化



- 新製品・新技術開発や販路拡大支援などの産業振興施策を充実させることが必要
- 地域間や異なる産業分野間での連携や交流を行うことで、従来の概念にとらわれない新たな角度からの産業振興が必要



上記のような状況を受け、平成23年8月、藤枝市、農業協同組合、商工会議所、商工会が「藤枝市農商工連携・6次産業化推進ネットワーク」を設立。会員数107名（うち、農林業者は33名）。

## 2. 事業の目的とネットワークの役割

### ➤ 目的

- 藤枝産農作物の需要拡大と産業の振興を図る
- 地域の農林産業と食品産業をはじめとした様々な産業間の連携を促進
- 会員同士の交流から派生した新たな商品、サービス、販路、地域ブランド等を創出

### ➤ ネットワークの役割

- 農林業者と商工業者等の交流を促進  
セミナーや交流会、視察、ビジネスへの発展の場を提供。  
会員同士の出会いや交流の場を設ける。
- 新商品・サービスの創出支援  
新商品・サービスの創出に向けたプロジェクトに対し、事業化に必要な開発・販路拡大などの経費を補助
- 専門家の派遣  
専門家を派遣し、プロジェクト構想の課題整理や具体的な計画づくりなどをサポート

一番重視している役割

### 3. ネットワークの支援

#### (1) スタートアップ支援（補助金）

藤枝市の農林資源を活用した新商品やサービスの研究開発を支援。  
H27年度末現在、17プロジェクトを支援。  
調査分析や研究開発、市場開拓に要する経費。  
補助率1/2以内、上限は合計で150万円。

#### (2) ランクアップ支援（人的サポート）

国や県の助成制度の活用支援や課題解決のため、専門家を派遣。  
対象者はスタートアップ支援事業採択者、または農商工連携・6次産業化による藤枝市の農林資源を活用した新商品開発に取り組む会員。

#### (3) 食農連携マネージャー派遣

外部専門家（食農連携マネージャー）を農業者に派遣し、企画提案やマッチングのサポートをし、農商工連携や6次産業化に取り組む事業者の増加を目指す。  
農家に「きっかけづくりから販売まで」一括提案する。



## 4. プロジェクト紹介

### ◆藤枝カシスプロジェクト◆

藤枝市を日本一のカシスの産地に！と、地元大学農学部と共同研究し誕生。  
2014年藤枝セレクションにも登録。  
H23年採択。



### ◆藤枝産ブルーベリーを使ったキャンディでMYFCを応援しようプロジェクト◆

サッカーJ3藤枝MYFCの応援企画として誕生。  
藤枝MYFC唯一のオフィシャルグッズ。  
H25年採択。



### ◆白ふじジンジャープロジェクト◆

白ふじの里実行委員会（地区振興団体）が中心となって、自家栽培ショウガからシロップや炭酸飲料を開発。  
H25年採択。



### ◆SAKENOMICSプロジェクト◆

耕作放棄地で酒米を生産し、日本酒を製造。  
2015インターナショナルワイングランプリで日本酒部門銅メダルを受賞。  
H25年採択。



## 5. 藤枝市の農業の現状

### ➤ 農業の担い手【農家数】 資料：農林業センサス2015

区分	総農家数	販売農家	自給的農家
平成17年度	3,375	2,205	1,170
平成22年度	3,047	1,804	1,243
平成27年度	2,648	1,395	1,253

約20%減少

### ➤ 経営耕地面積 資料：農林業センサス2015

区分	総面積	田	畑	樹園地
平成17年度	1,975	830	113	1,033
平成22年度	1,643	754	76	814
平成27年度	1,311	650	92	569

約33%減少

約45%減少

藤枝市の基幹作物の一つであるお茶の価格低迷により、お茶だけで生計を立てることが難しくなっている。樹園地の減少はそれも一つの原因と思われる。

## 6. 藤枝市薬用農作物出荷組合（アグリフューチャー藤枝）

- 複合的に栽培できる作物を探し、農家の経営を継続できるように対策を考えていた
  - 市内の製薬会社からの情報により、検討を開始
  - 国の耕作放棄地緊急対策交付金を活用。約1.4haを解消し栽培開始
- ↓
- 製薬会社との栽培契約は個人では不可。組織化の必要があったため、組合を設立（平成22年1月）
- ↓
- 製薬会社との契約栽培のため、生産物は全量、製薬会社へ卸す
  - 栽培品目はミシマサイコ、トウキ（トウキは今年度で栽培終了）
  - 組合員数は25名（平成28年4月1日現在）：設立当初54名から減少

【現在、耕作放棄地に占める薬草栽培の面積】

薬草栽培面積：42a（うち交付金活用：23a）

市内の耕作放棄地面積：約210ha → 耕作放棄地に占める割合 **0.2%**

## 7. 問題点と今後の展開

### ➤ 問題点

#### ■ 雑草対策

ミシマサイコは種子を蒔いて栽培するため、雑草の種が何年も落ちた耕作放棄地では雑草対策が大変。

これが原因で栽培を断念した人が多数。

#### ■ 高齢化

#### ■ 多作物との競合

基幹作物であるミカンやお茶の収穫時期と競合してしまう。

### ➤ 今後の展開

#### ■ 栽培農家の増加策

市と組合員によるPR活動を実施→農家の口コミも影響大

#### ■ 新規栽培者の募集

新規栽培説明会を開催。自ら薬草栽培に関心を持ち、栽培意欲がある人の参入を促す必要がある。

#### ■ 耕作放棄地の活用

茶畑等からの転換も可だが、耕作放棄地はミシマサイコには不向き。

## 8. 委員の所感

### ■ 農商工連携・6次産業化推進ネットワークについて

- 今日、全国で通年農業で収益をあげ、「生活のできる農業」を目指し、後継者や就農者の確保に向けて、農業と生産物に付加価値をつけ、販売する6次産業化が進められている。作物の生産者である農業者と、加工等の技術を持つ工業者、販路拡大等の専門家である商業者、そして行政や研究機関等との連携は絶対的に必要である。いかに連携して取り組むか。組織づくりを含め、参考になる。
- 本来は地元JAが主に担うべき役割であり、交付金等の導入手段とすれば、耕作品種にもよるが同様の連携は参考になる。
- 藤枝市は商品開発が進んでいる。特徴として、身近に存在する野菜、果物、お茶等を製品化している。また、本格的にネットワーク体制を敷き、支援体制を強化している点が商品開発が進んでいる理由であると評価する。本市も特産品を対象とするだけでなく、積極的に開発してもいいのではないかと思うので、開発、販売について、行政と一体となり積極的にサポートしていきたい。
- 商品のスキルアップに専門家の派遣は重要だが、選任には現場主義の人材を投入すべきではないかと感じた。

## ■ 薬草栽培の普及促進による耕作放棄地対策について

- 栽培品種が製薬会社の都合で変更になったとのことである。そのようなことが拡大しない原因ではないかと思われる。耕作放棄地解消については、ほど遠い状況にある。本市の取組みは5～10年を基盤づくりと考えられているが、その間の取組みの難しさを痛感した。
- 薬草栽培の展開は、強いリーダーシップの持ち主が必要との指摘もあり、技術面のサポート、作付品種等を含め、製薬会社との契約栽培への依存となり、行政としては技術面の対応はハードルが高い。本市での研究は理解できるが、事業展開において経営面における安定した買取先の確保等が懸念され、慎重な対応が望まれる。特に、本市の今後の展開では、ひむか-B i zの有効活用にも期待したい。
- 製薬会社との契約栽培あるいは、江戸時代からの三島地方での栽培の歴史、気候風土、土地の形成などの諸条件が具備されていると感じた。本市でも、父君が医者であった若山牧水の歴史とともに試行しながら結び付けていくのも手法かと思った。
- 本市とは単純比較はできないが、参考になる部分も多くあった。農家が意欲的に積極的に取り組む体制の構築を行政がうまくサポートしていく必要を認識した。



ご清聴、ありがとうございました



富士市ホームページから引用